

建立のための実行委員会を結成します

9月19日に「結成準備会」を開催しました

2021年7月に、百里平和公園に「憲法9条の碑」を建立したいという話が持ち上がってから、2年の歳月がたちました。この間、百里基地反対運動に関わる団体間で断続的に協議が続けられ、やっと具体的な計画が立ち上がりました。

9月19日に、百里平和公園に「憲法9条の碑」を建立するための実行委員会結成を目指した「準備会」が、 8団体12人の参加で開催されました。準備会では実行委員会を結成することを確認し、実行委員会に提案する建立計画の原案を協議し、下記のような内容に整理しました。実行委員会に参加した団体は、次の通りです。

百里弁護団(1)、百里の会(3)、百里平和委員会(1)、茨城県平和擁護県民会議(2)、

茨城県平和委員会(2)、日本国民救援会茨意見本部(1)、憲法9条の会つくば(1)、

社民党(I) *()は参加人数

実行委員会の結成のために

- (I) 実行委員会を結成して、建立を目指すことを確認しました。IO月I9日(木)に第I回実行委員会を開催します。
- (2) 準備会で実行委員会への参加を表明した団体は次の通りです。 呼びかけ団体の5団体(百里基地同盟、百里弁護団、百里平和委員会、百里の会、日本山妙法寺) 茨城県平和擁護県民会議、茨城県平和委員会、日本国民救援会茨城県本部、 憲法9条の会つくば、社民党、新社会党
- (3) 実行委員会への参加を呼びかける団体 連協の加盟組織 県内の憲法9条の会 百里基地反対運動に関わりのある団体その他

建立計画の概要(案) 2024年2月11日の竣工を目指します

■ 場所: 百里平和公園内、稲荷神社のある区域

■ 形状: 石碑。表面は憲法前文と9条。裏面は建立の趣旨文など

■ 予算: およそ150万円

■ 実行委員会の体制: 委員長·副委員長と事務局を置く

■ 賛同金を募る

個人: 1口1000円、団体: 1口3000円

■ 賛同金募集期間: ||月~|月

■ 竣工時期: 2024年2月11日 百里初午まつりの日

|0月|9日に第|回実行委員会を開催します

- ◆ 10月19日(木) 15時~
- ◆ 県立青少年会館中研修室
- ◆ 内容: 建立計画の決定、碑文の案・案内チラシなどの検討

10月21日(土)作業を実施します

平和公園の草が逞しく育っている ため、10月21日(土)に平和公園の 除草作業などを行います。

百里の会

自衛隊以憲法遺反

第28号 2023年10月10日

一般社団法人 百里の会

茨城県水戸市見川 5-127-281 Tel 080-9457-6381 E-mail hyakurip@gmail.com HP https://hyakurip.web.fc2.com

基地を見下ろす大看板、「自衛隊は憲法違反」は 50年間、何を見てきたか その 10

39. 世界制覇を野望する三国同盟(世界大戦の性格その1)

第2次大戦の前半戦はそれまでの戦争の性格を変えました。それまでの帝国主義戦争は一国のみの利権と政治支配力の拡大を目指しましたが、40年9月につくられた日独伊の三国軍事同盟は戦争の性格を大きく変えました。

ョーロッパをそしてアジアを三国で支配下に置き世界制覇を目指す三国同盟の野望は、世界の人々・連合国の指導者に新たな戦略を提起しました。1938年3月、ヒットラーは「同一の血は共通の国家に属する」(『我が闘争』)などと言い、オーストリア国境の町、ブラウナウが自分の生まれ故郷ということで同国を併合し、翌39年9月には突然ポーランドを侵略します。かねてより有事の際の支援を約束していた英仏両国はドイツに宣戦布告し第2次大戦が始まります。その後、ドイツは周辺諸国を次々に侵略し41年4月には、ユーゴスラビアに攻め入りヨーロッパのほぼ全域を支配下に置きます。

イタリアは35年、アフリカに勢力を伸ばすためにエチオピアを侵略し翌年、同国を併合します。日本は、31年の満州事変、37年の日中戦争と中国を侵略し、41年12月にはアメリカに宣戦布告無しにハワイ真珠湾を奇襲攻撃し文字通り第2次大戦は世界を巻き込みました。

そしてついに、ヒットラーは41年6月、ついに「共に天を戴かず」の社会主義国ソ連邦に侵略を開始します。独ソ戦は各国の予想に反して43年2月、スターリングラードにおいてドイツ軍の降伏に終わりました。以後、日独伊三国は劣勢に入り第2次大戦は後半戦に入ります。

40. 反ファシズム連合国の統一 (世界大戦の性格その 2)

また、前回記したように、社会主義国ソ連邦とアメリカの参戦は戦争の性格を質的に変えました。19世紀後半からの独占資本主義段階に達した列強国同士の植民地争奪戦は植民地の「再分割と資本家の利権」を目的とする帝国主義戦争と言われるものでしたが、ドイツのソ連邦への侵略はその性格を変えました。そしてそれを機にアメリカが帝国主義的要求ではなく、ファシズム三国を「人類の敵」として世界各国・人民に「国際平和」実現の統一スローガンとなった大西洋憲章を宣言し、42年1月には26ヵ国による反ファシズム連合国の統一戦線が結成されたことにあります。45年の国際連合結成時には47ヵ国が賛同しました。

41. 第2次大戦の後半戦の様相

* ドイツ軍のスターリングラードでの敗北 (43年2月)、日本軍のマグナカルタ撤退 (同3月)、イタリア軍の北アフリカでの敗退 (同5月) はファシズム三国の総崩れとなる転機でした。それ以後、45年8月の日本降伏までの2年数カ月は正に人類がこれまでに経験のなかった激動と大転換に時期になりました。

参戦国59カ国、正確な数字などわかるはずがありませんが6000万人以上の戦死者・犠牲者、富・財産の破壊は私たちの歴史には未だなかったことでした。それだけに、人間一人ひとりにとって戦争とは何だったのか。戦争を国家の問題としてだけでなく、人間がひとしく生きるための国際平和を実現するための努力を人類の課題として押し出しました。

私たちの人間のあゆみが始まって以来、どんな天 災よりも多くの戦死者・犠牲者を出した第2次世界 大戦。それは人間自らが生み出した人災でした。 明治以来、戦争の度に「勝った、勝った、戦争バン ザイ」と国中、お祭り騒ぎをしていた日本国民。そ こには平和という言葉は死語に等しかった。一変し て戦後は、戦争バンザイなどと言う人はいなくなり 逆に、「平和を守ろう」が国際共通語として使われま す。この人間の歴史にとっての一大転換が創り出さ れたのが第2次大戦の後半戦の中からでした。この ことを見ないで戦後の国際社会の平和、なかんずく 日本の平和憲法の存在を語ることは出来ません。

42. 米英ソ3国の政治的立場のちがい

* 日独伊の軍事的敗北、が明らかになってくるとそれまでの反ファシズムで統一してきた米英ソは従来からの立場の相違が表面化してきました。

イギリスは世界最大の植民地保有国であり帝国主義の権益を守る立場にありました。そのために一方で同じ帝国主義国の日独伊ファシズムと対決すると同時に資本主義を倒し社会主義社会をめざすソ連とも対決する敵対関係にありました。

ソ連は資本主義社会を倒し社会主義革命を世界 に広めようとし、同時にソ連の一国社会主義国を帝 国主義から守る立場にありました。

アメリカは伝統的のヨーロッパ大陸との相互「不 干渉主義」によって、政治・経済的関係を深めずに きました。第1次大戦後の国際連盟の結成に際して も、ウイルソン大統領の「14か条の平和原則」が 「連盟」の設立(1920年)を担ったにも拘わら ず、アメリカ上院議会の反対で加盟が否決されます。 そして20年後には第2次大戦が勃発し、ヨーロッ パ、アジアがファシズム枢軸国に征圧されアメリカ は日独伊三国と対決せざる得ない立場にたたされ ました。

* 特に、東欧諸国は前半戦にはドイツ、イタリアの占領下で対ソ戦に協力させられ、後半戦は反対にソ連軍の進駐によってそれぞれの東欧諸国は複雑な政局を迎えます。多くの国は戦争中イギリスなどに亡命政府をつくり政府を移しました。

また、東欧はユーゴスラビアやイタリアなどで活発にパルチザン(武装地下組織)やレジスタンス(非武装地下組織)が反ナチス活動を行い占領後の政局に大きな影響を及ぼします。それは米英とソ連の対立を呼び起こし戦後の国際社会に米ソ冷戦構造を形成する大きな要因となりました。

43. 国際連合結成にむけて

しかし他方、反ファシズム大戦後の国際平和のあり方の原点となった太平洋憲章の精神は、米英ソの立場の違いを越えて国際連合結成に向けて進みます。

43年10月に米英ソ中の4か国はモスクワで会議を開き国際平和機構について、「4ヵ国宣言」を発表し、翌年8月再び、ワシントン郊外のダンバートン=オークス会議を持ち国連憲章の基礎がつくられました。そして45年2月のヤルタ協定の名で国際平和組織(国際連合)のよびかけがなされ、6月には国連憲章が原加盟国51カ国で署名され、10月に過半数以上の国が批准し国際連合が発足します。

44. 米英とソ連が対立する連合国の会議

43年始めから終戦までの2年数カ月は連合国にとってはもろもろの会議の連続でした。ひとつには、連合国の統一スローガンであった大西洋憲章はファシズム国を倒した後の占領や民主化問題、国際的な平和機構をどうつくるかなどについては具体化されていませんでした。43年の7月には予想に反してイタリアのムッソリーニ政権が早期に倒されたことです。急遽、英国のイーデン外相が占領案をつくり連合国で検討に入るという状況でした。連合国が43年から急ぎ戦後の世界のあり方をめぐって首脳級・外相級の会談が頻発に行われる理由がありました。

米英ソのそれぞれの思惑を秘めて行われる諸会談・話し合いは対立と妥協の繰り返しでした。ひとつは、日独伊の敗戦・終戦処理、占領・民主化の課題、ふたつには東欧諸国の政治体制の課題、三つ目は戦後の平和機構(国際連合)の構築などの課題でした。

これらの戦後国際社会のあり方をめぐる米英ソ・連合諸国の激しい対立と妥協の結果が米ソが世界を 二分し支配するという米ソ冷戦構造を産み出して いきました。

* またこの間、テヘラン、ヤルタ、ポツダムと米 英ソの首脳会談が行われますが、通常の会談とは異 なりました。通常の首脳会談では事前に会談内容は 検討され最後の首脳会談で合意されます。しかし、 43年11月のテヘラン会談は4日間、45年2月 4日からのヤルタ会談は8日間、45年7月17日 からのポツダム会談は16日間でした。これらの会 談ははじめに首脳会談で問題を出し話し合い、問題 点が出たらそれを受けて三国の軍参謀が軍事問題 を、外相・閣僚級の官僚が国際・各国間の問題を午 前・午後に検討し、夕方から首脳会談をするという 形をとったのです。それが何日も続いたという事で 通常の首脳会談とは異なりました。首脳会談とは言 え占領体制、戦後の国際平和についての政策・方針 づくりという性格をもち長引いたのです。会議の参 加者は30~40人は下らなかったのではないで しょうか。

* ファシズム打倒の後半戦から戦後国際社会(国際連合)の平和を築く努力をしてきましたが、反面、 戦後の世界を二分する米ソ冷戦構造を同時かたち づくってきました。そのような人類史の大転換の中 からどのようにして日本の平和憲法が創られたの 特に国連憲章前文との関連に注目していきたいと 思います。以下、順次追っていきたいと思います。

45. ルーズベルト、日独伊に無条件降伏を要求

まず、スターリングラードにおける独ソ戦でドイツの敗北が明らかになりつつあった、43年1月14日~23日に北アフリカ、モロッコのカサブランカでルーズベルト、チャーチルが会談します。この会談ではスターリンにも呼びかけられましたが独ソ戦の真っ只中で出席できませんでした。会談では、まず北アフリカのイタリア軍の敗北後にイタリアのシチリア島から南イタリアへの上陸作戦がチャーチルの要求で確認されました。さらに重要ことは宣言には盛られていませんでしたがルーズベルトが会談後の記者会見で日独伊の三国に無条件降伏を要求を言明した事でした。チャーチルは同席していましたが反対するわけにもいかず賛成します。連合国による日独伊三国の敗戦・終戦処理の前提条

件として、それまでの帝国主義戦争ではありえなかった無条件降伏を要求したことです。

* 大西洋憲章の第 1 項目は米英が戦勝国になっても「領土の拡大は求めない」と宣言しました。このことは植民地争奪が戦争の根源にあったことから米英は自らその弊害を断ったのです。反面、日独伊に対してはファシズムの再現を許さないために、非妥協的な戦いをする事。軍隊・軍事産業の解体、戦犯の処罰(ニュルンベルグ裁判・東京裁判)そして平和・民主主義の実現のため政治的・経済的構造にいたるまで民主化を要求します。このような事を実現するには敗戦国に対してすべての政治権力を剥奪し占領軍が全権力を把握する以外にありません。

「管理占領」とも言われています。

* このような終戦処理はこれまでの帝国主義戦争ではありませんでした。それまでは戦争で勝敗がつけば休戦条約を結び「領土の再分割・賠償金」などの取り立て、捕虜の交換などを話し合い講和条約を結び終戦になりました。言わば国際的に戦争が認められていたのです。

そして敗戦した列強国は軍事力を高め新たな戦 争の準備に急いだのです。

しかし、ファシズムの出現は単なる利権にからむ 戦争ではなく無実の市民や民族を抹殺するという 言わば人類を敵としたことにありました。第1次・ 第2次大戦のようにその規模、死傷者の数が膨大と なり一般市民におよんでくると国際的に「戦争はダ メ」「平和を大切に」という新しい「時代精神」を担 った平和勢力の出現を求めるようになりました。 それはこれまでの国家間の戦争をなくすという次 元から戦争を「個人の尊厳」、この世に生を受けた人 間がひとしく平和に生きる権利を有する、というも のでした。 (つづく)

☆ 8月前半の猛暑、そして後半のコロナ感染で体調を崩し発行がおくれたことをお詫びします。

伊達郷右衛門